

武庫川臨床教育学会 ニュースレター

2025.12.20 No.31



武庫川臨床教育学会創立 20周年

第 20 回武庫川臨床教育学会研究大会のご案内（第 1 次案）

本年度の研究大会を 2026 年 3 月 7 日（土）に開催いたします。積極的な研究発表とご参加をお願いします。第 20 回大会は節目の大会です。「武庫川臨床教育学の歩み、これまでこれから」（仮題）をテーマに、参加者の皆様と共に考えていきたいと思います。当日は、広木克之さん（神戸大学名誉教授）による「不登校の『心の傷』が癒えるとは」をテーマとした講演を行います。シンポジウムでは、大会テーマに沿って参加者全員の臨床教育学のイメージを語り合いたいとも考えています。また、昨年と同じように懇親会も企画いたします。皆様、お誘いあわせの上、ぜひご参加いただきますようお願いいたします。

◆ 日時・会場

2026 年 3 月 7 日（土）10:00～17:00 (受付 9:30～)

武庫川女子大学教育総合研究所（旧教育研究所）

※ 会場での開催を基本とします。ただし、自由研究発表のみ、対面とオンラインの同時開催とします。

武庫川臨床教育学会

<http://mukogawarinkyo.com/>

〒663-8558

兵庫県西宮市池開町 6-46

武庫川女子大学教育総合研究所内

電話番号: 075-922-7749 (吉益自宅)

メール: mukogawarinkyo@yahoo.co.jp

◆ 日程

9:30	10:00	12:00	13:00	15:00	17:00
受付	自由研究発表	休憩	講演	シンポジウム・総会	

※ 総会はシンポジウム終了後に開催します。総会終了後、懇親会を行います。場所は検討中です。

◆ 参加費

1,000 円（武庫川女子大学の学生は無料、院生・研究生は 500 円）

※ 当日払いです。

※ オンライン参加（自由研究発表のみ）の方は、ゆうちょ銀行の振替口座（口座番号：00940-3-224555、加入者名：武庫川臨床教育学会）にお振込みください。その際は、「研究大会参加費」と備考欄に記入し、参加申込締切日までにお振込みいただきますようお願いします。

◆ シンポジウム・講演

（1）シンポジウム「臨床教育学と私」

武庫川女子大学大学院に入学した動機、そこで学んだこと、そこから生まれた今の問題意識について、参加者全員で語り合います。最初に渡邊理事からニュースレターの連載記事「私と臨床教育学」を踏まえた問題提起をしていただきます。その後グループごとに深めていく予定です。

（2）講演「不登校の『心の傷』が癒えるとは」 講師：広木 克之 氏（神戸大学名誉教授）

東京、長崎、兵庫など、これまで関わってこられた不登校・登校拒否を考える親の会の取り組みや交流を踏まえて問題提起をしていただく予定です。（同タイトルの書籍が近著となります。併せてご参考ください。）

◆ 自由研究発表の申込

- ① 発表時間は 20 分、質疑応答 15 分を予定しています。発表申込の〆切は 2026 年 1 月 31 日（金）です。
E-mail : mukogawalinkyo@yahoo.co.jp 宛にメールでお申し込みください。申し込みの際、お名前（所属がある場合は所属名も）、発表のタイトル、発表の方法として「会場発表」か「オンライン発表」かを明記してください。
※自由研究発表の予定は、学会ホームページにて大会までに紹介させていただき。
- ② 発表要旨の提出は、2026 年 2 月 11 日（水）が締め切りです。発表要旨は、タイトル、発表者名を最初に記し、A4 サイズ 2 枚以内で Word ファイルにて作成し、メールに添付してご提出ください。提出先は申込時と同様に E-mail : mukogawalinkyo@yahoo.co.jp 宛にお願いします。
- ③ 発表者には、発表後のまとめの提出もお願いします。字数は 1,200 字程度です。編集の都合上 Word ファイルで保存したものをお送りください。締め切りは 2026 年 3 月 31 日（月）といたします。こちらの提出先は、上記①②と異なり、mukogawaronsyuu@yahoo.co.jp 宛にお送りください。

◆ 研究大会参加の方法について

- ① 事前参加申し込み制といたします。2026 年 2 月 13 日（金）を締め切りとします。締め切り日までに、「会場参加」あるいは「オンライン参加」のいずれかを明記して、メールまたは Google フォームでお申し込みください。

E-mail : mukogawalinkyo@yahoo.co.jp

Google フォーム : <https://forms.gle/W1RbskWBm3zMSHcH9> QR コードはこちら→

- ② 参加申込をいただいた方には、オンラインでの参加方法、発表要旨集録をお送りします。

- ③ 「会場参加」「会場発表」の方は、次の点にご留意ください。

1) 受付では必ずお名前、電話番号の記入をお願いします。

2) 建物入口や会場内にアルコール消毒の場を設けますので、手指の殺菌をお願いします。



- 3) 会場内の発言は、挙手をした上でマイクを通じてお願いします。
- 4) 借用している教室以外の場所やフロアへは立ち入らないでください。
※ご質問がありましたら、メール：mukogawarinkyo@yahoo.co.jp 宛にお問い合わせください。電話の場合は吉益自宅（075-922-7749）まで。不在の時は留守番電話に用件をお話しください。折り返し電話いたします。

自由研究発表への申し込みを募集します

大学院生、会員外の方の発表も増えています。参加者が相互に問題意識を交流・発表できる場にしたいと思います。是非チャレンジしてみてください。自由研究発表はオンライン同時開催です。発表題目はホームページで紹介します。多くの方々のお申し込みをお待ちしております。



機関誌『臨床教育学論集』第20回研究大会特別号

第20回研究大会を記念して大会特別号の臨床教育論集17号が発行されます。大会までに皆様のお手元に届く予定ですので、ご期待ください。



会費納入のお願い

今年度の会費納入のまだの方は、是非ご入金をよろしくお願いします。



新しい会員の紹介です

山本真樹子さん（武庫川女子大学博士課程1年生）がご入会してくださいました。



学びが深まった小さな学習会

◆小保方報告 「教育現場におけるソーシャルワーク実践について」

10月の小保方さんのご報告は日本メデイカル福祉専門学校での保育士養成における専門商養成の課題について報告されました。留学生の就労ビザ問題や専門学校の生徒の基礎学力の個別対応の問題を提起されました。現状と対応を詳細に報告されました。

中村副会長の指定討論のあと討議交流をしました。社会人学生の体験を学習の中にどのようにいかしていくのか、対人援助職の立ち位置について考えることができました。

小保方さん、あらためて貴重なご報告ありがとうございました。8人の参加でした。

◆常照園見学訪問

11月1日（土）に見学し、会員の小西健太さんに常照園の取り組みや課題などを丁寧に報告いただきました。建て替えリニューアルされた施設で木のにおいとぬもりが感じられました。園に入所している子どもたちの様子、施設と近隣住民との関係、園ではたらく勤務員の研修とケアの問題など質問、交流で深められ。あつという間の2時間でした。小西さん、小川園長、お忙しい中ありがとうございました。会員外の2名の方を含めた8人の参加でした。

【参加者の感想から】

- 社会的養護に限らず何事においてもですが、制度や仕組み、組織の理念や風土、援助者の専門性と人間性、この3つのどれもが必要であり、日本社会に取り残されている子どもや若者がまだまだたくさんいる中で、常照園は一つの希望であると感じました。
- 私の勤める施設としても学ぶことが多く、とても刺激を受けました。皆さんと面識もない中で、あたたかな雰囲気も嬉しい参加させていただき本当によかったです。
- 本日は待ちに待った見学会で、聞きたいことが山盛りでしたが、皆さんの質問でたくさんのが学べました。



シリーズ：私と臨床教育学②

今でも宝物として

(題は編集部による)

佐藤 安子（武庫川女子大学教育総合研究所共同研究員／同大学非常勤講師）

2007年12月、30分間の博士学位請求論文の口頭試問が終わった。足掛け6年にわたる私の臨床教育学の学びが一段落した日であった。私は2002年に武庫川女子大学臨床教育学研究科博士後期課程に入学した。

入学に至ったいきさつは次の通りである。2001年の夏ごろであつただろうか。ふと「45歳になつたら何もかも辞めてしまおう」という考えが頭に浮かび、それがとてもよいことを感じていた。冬になり、その考えを家人に打ち明けたところ、「ちょっと待て。夜間開講の大学院博士課程で学んではどうか。」と辞めることにストップがかかった。当時の私は、一般企業の健康管理センターで臨床心理士として社員の方々への心理支援や各地の系列事業所へのメンタルヘルス研修講師としての出張、と忙しい会社員生活を送っていた。今思えば、20年近くに及ぶ心理支援職の仕事で疲弊していたのかもしれない。そのことに気づく間もなく、昼は会社員、夜は臨床教育学を学ぶ学生としての生活が始まった。

楽しかった。自分の中に滯っていた澱のようなものがどんどん溶け出していった感じを今でも覚えている。年齢も職種も背景も異なる学びの仲間たちから聴く話は目から鱗の連続であった。そして先生方の講義や指導はどんな臨床家のカウンセリングよりも私にとっては治療的であった。もちろん指導の場であるので、ゼミは厳しかった。あるとき「〇〇はこのような概念と考えていいのですか」と何気なく先生に聞いたところ、「それはあなたが考えるんだ」と跳ね返ってきた。こうして自分の力で考えを紡ぎだす厳しさも学び、自分の研究に一層正面から取り組むことができたと振り返る。そして借り物でない自分の考えを紡ぎだす作業は、多くの先人の論文を読み込んで初めてできることもあらためて学んだ。歯ごたえがあったが、電車の中で辞書を片手に必死で読み進めていた。「こういう場があったのか」とあらためて臨床教育学研究科という場の力に頭が下がる。

博士後期課程の途中でとある大学に就職した。ここで指導した学生には武庫川女子大学臨床教育学研究科修士課程に進学した者もいる。私は、その後縁あって武庫川女子大学の教員となり、臨床教育学研究科後期課程の教員としても仕事をさせていただいた。2024年度末で定年を迎え、現在は教育総合研究所共同研究員と非常勤講師の立場で仕事をさせていただいている。そして臨床教育学研究科の学生時代に読んだ数々の論文は紙の色は褪せたが今でも宝物として手元に残っている。

次回以は、本多裕子さんです。



編集後記

今回は20回大会の案内です。節目の大会、皆様の参加をお待ちしています。20回大会をさらなる起点として、武庫川臨床教育学会がさらに発展できるよう、皆様のお力を是非ともおかしください。▼小さな学習会はどちらも好評でした。次年度も年4回の開催を計画中です。

<文責：吉益、装丁：渡邊、発送：二羽>

